

対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 ASEAN 招へい第 24 陣の記録

テーマ：若手行政官交流，対象国：ベトナム

1. プログラム概要

JENESYS2019 の一環として、ベトナムより若手行政官 21 名が、2020 年 2 月 11 日～2 月 19 日の 8 泊 9 日の日程で来日し、「若手行政官交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。本訪日団は、東京都内で国会議事堂や東京臨海広域防災公園、日本企業や日新窟（増上寺）を視察し、日本の政治や経済に関する知見を広めました。千葉県では、千葉県庁を表敬訪問したほか、千葉県外国人介護人材支援センターや千葉大学内にある植物工場研究会を視察、日本の福祉や環境について学びました。また岡山県では、岡山県美作市役所や美作商工会への表敬訪問、苫田ダムや獣肉処理施設の視察を通じ、日本の技術への関心を高めたほか、オリンピック・パラリンピック施設を視察しました。さらにホームステイで地元の人々と触れ合い、地域における国際交流活動に関わることで、様々な形で親睦を深めました。一行はプログラム中、日本の様々な活動に触発され、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】ベトナム 若手行政官 21 名

【訪問地】東京都，岡山県，千葉県

2. 日程

2 月 11 日（火）

ー来日

2 月 12 日（水）

ーオリエンテーション

ー【聴講】外務省（南東アジア第一課）

ー【視察】国会議事堂

ー【視察】オリンピックミュージアム

2 月 13 日（木）

ー【視察】東京臨海広域防災公園（そなエリア）

ー【表敬】千葉県庁訪問

ー【視察】千葉県外国人介護人材支援センター

ー 東京都から岡山県へ移動

2月14日（金）

- －【表敬】岡山県美作市役所
- －【視察】ホーチミン像およびオリンピック・パラリンピック施設（ホストタウン）
- －【視察】美作市獣肉処理施設（研修生労働風景）
- －【視察】美作商工会（活動内容説明と意見交換）

2月15日（土）

- －【視察】苦田ダム
- － ホームステイ（岡山県吉備中央町）

2月16日（日）

- － ホームステイ（岡山県吉備中央町）
- － 岡山県から東京都に移動

2月17日（月）

- －【視察】日新窟（増上寺）
- －【視察】植物工場研究会（先端技術）

2月18日（火）

- －【企業訪問】日本テレソフト
- － ワークショップ
- － 成果報告会

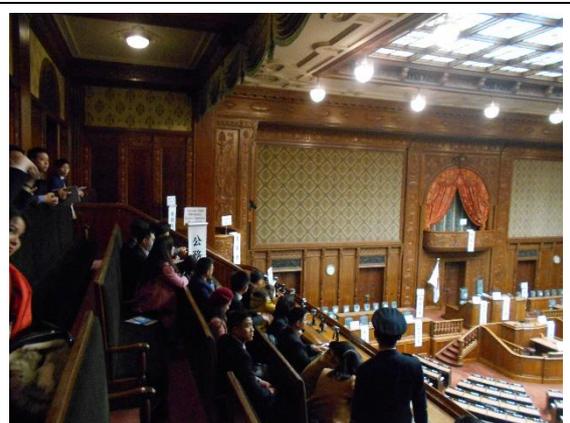
2月19日（水）

- － 離日

3. プログラム記録写真



2月12日【オリエンテーション】



2月12日【視察】
国会議事堂



2月12日【視察】
オリンピックミュージアム



2月13日【視察】
東京臨海広域防災公園（そなエリア）



2月13日【表敬】
千葉県庁訪問



2月13日【視察】
千葉県外国人介護人材支援センター



2月14日【表敬】
岡山県美作市役所



2月14日【視察】
ホーチミン像



2月14日【視察】
オリンピック・パラリンピック施設



2月14日【視察】
美作市獣肉処理施設



2月15日【視察】
苦田ダム



2月15日【ホームステイ】
岡山県吉備中央町



2月16日【ホームステイ】
岡山県吉備中央町



2月17日【視察】
日新窟（増上寺）



2月17日【視察】
植物工場研究会



2月18日【企業訪問】
日本テレソフト



2月19日【成果報告会】

4. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ 私達の行程は、それぞれ異なる機関から集結したメンバー21人から成る若手職員団が搭乗機の中で共に助け合うところから始まりました。そして私たちは深夜 23 時頃に東京に到着しました。東京の凍るような寒い気候の中で、私たちを出迎えて下さり、フレンドリーに接し、気遣いして頂きました。恐らくその優しさが日本の冬の凍るような寒さを和らげてくれたというのが、私が日本へ到着した際の最初の印象でした。私たちが訪れた各地で、住民の方々が温かく歓迎してくれたことを本当に有り難く思いました。
- ◆ 私にとって訪問先の中で最も感動し、印象的だったのは2箇所、東京臨海広域防災公園、及び日本人とのホームステイ体験でした。私は日本の地震について書籍や新聞で読んだり聞いたりしていました。しかし、東京臨海広域防災公園を訪問し、そこで体験したことを通じて、私は初めて日本が経験した困難を感じる事が出来ました。2011年の地震は衝撃的な大惨事を招き、地震は高さ10メートルの津波を引き起こし、全ての住宅や産業施設、原子力発電所、道路、橋、港湾、空港は深刻な打撃を受け、さらに約1万6,000人が死亡し、多くの人々が負傷、行方不明となりました。私達は日本

の人々が経験した困難の記憶を呼び戻してもらいました。これについて私は非常に感動し、日本の皆さんの努力や意思に敬服致しました。天災や地震に毎年遭遇しているが、それこそが日本の人々が規律正しく仕事し、生活の中で責任感を持つ事に繋がっており、そして、そのことは、日本の経済、文化、社会の全面的な発展により肯定されています。

5. 受け入れ側の感想（抜粋）

◆ 岡山県美作市役所

少子高齢化が進み労働人口の確保が市としての喫緊の課題の中で、外国人労働者の中でもベトナム人が一番多く、また現地ダナン市との国際交流も盛んに行われているという説明に真剣に聞き入っている団員の姿が印象的でした。昼食会では実際に美作で働いているベトナムからの研修生との懇親も図れ、極めて有意義な交流が出来たと感じます。

◆ 千葉県総合企画部 国際課

千葉県とベトナムは経済支援のみならず留学生や介護人材の受け入れについても積極的に交流が行われている事について、団員の皆様が事前勉強を行い今回の会議に臨まれていたので後段の質疑応答のコーナーでは、活発な意見交換が交わされ充実したプログラムとなり受け入れ側としても遣り甲斐を感じました。

6. 参加者の対外発信

<p>ベトナムと岡山県美作市は深い友好関係にありホーチミン像がその象徴の証。</p>	<p>植物工場研究会で最先端技術の勉強</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）



※アクション・プラン

私たちはベトナムに帰国後、アクション・プランについて以下のように協議した。

- ・第一に、私たちは機関の指導者にプログラムの訪問結果について報告を行う。この事は、私たちの指導者が、私たちがプログラムから得た価値の大きさが分かるという意義がある。
- ・第二に、私たちは SNS やマスメディア、友人や家族との会話を通じて情報を共有する。それらを通じて私たちのような大変多くの若者がプログラムについて理解し、参加することが出来る。
- ・第三に、特に若手公務員向けに機関で専門セミナー、会議、活動を開催する。ここにいる私たちの大半は青年の若手公務員である。プログラムの参加者として、私たちは、日本の経済や文化、人々について印象的な事項や経験を共有していく。私たちの希望としては、日本政府がこのような意義あるプログラムをさらに多く開催し続け、毎年私たちのような多くの若者が参加して、アジア地域における固い結束と堅固な基盤を確立することだ。各国の連携や、各国から日本に招待された青年、又は日本から各国へ訪問する青年の交流により双方の理解をさらに深めることができる。何故なら彼らは将来の国家建設の重要な役割を担う世代であるためだ。

事業実施団体：株式会社 J T B